



独立行政法人国立美術館

国立アートリサーチセンター

National Center for Art Research

PRESS RELEASE

2026年4月1日

独立行政法人国立美術館 国立アートリサーチセンター

**国立美術館のコレクションを活用した、全国の美術館等との連携事業  
「コレクション・ダイアログ」「コレクション・プラス」  
開催希望の美術館を全国から公募開始(2026年4月1日～6月30日)  
～2026(令和8)年度「コレクション・ダイアログ/プラス」を開催する4館が決定～**

国立アートリサーチセンター(略称:NCAR、センター長:田中正之)は、地域におけるアートの鑑賞機会の充実と美術館の展示・調査研究活動の活性化に貢献することを目的として、全国の美術館等と協働し、国立美術館のコレクションを活用する2つの連携事業、「国立美術館 コレクション・ダイアログ」(2028(令和10)年度開催分)と「国立美術館 コレクション・プラス」(2027(令和9)年度開催分)の公募を2026年4月1日より開始します。また、2026(令和8)年度の事業内容が決定し、合計4つの美術館で展示を行います。

第2回目となる2026(令和8)年度「国立美術館 コレクション・ダイアログ」は、兵庫県立美術館(担当国立館:国立西洋美術館)に決定しました。神戸の川崎造船所の初代社長・松方幸次郎が戦前に収集したフランス近代美術を核とした国立西洋美術館の松方コレクション。そして、兵庫県西宮市のコレクター山村徳太郎が収集した戦後日本の前衛美術を中心とした兵庫県立美術館の山村コレクション。兵庫ゆかりの二人のコレクターが築いたコレクションが関西ではじめて共演します。

また、昨年公募を行った2026(令和8)年度「国立美術館 コレクション・プラス」は、茨城県陶芸美術館(担当国立館:国立工芸館)、北海道立近代美術館(担当国立館:京都国立近代美術館)、横浜市民ギャラリー(担当国立館:国立国際美術館)の3館に決定し、各館のコレクションを活かした展示を予定しています。

この事業では、「コレクション・ダイアログ」「コレクション・プラス」による展示に関する輸送費等の経費の一部をNCARが負担します。NCARは本事業を通して国立美術館と開催館、それぞれのコレクションに新たな光を当てるとともに、さらなる魅力の発見につながるような展覧会の開催を推進していきます。

◆国立アートリサーチセンター(NCAR)の事業について (<https://ncar.artmuseums.go.jp/>)

NCARは「アートをつなげる、深める、拡げる」をミッションに、情報収集と国内外への発信、コレクションの活用促進、人的ネットワークの構築、ラーニングの拡充、アーティストの支援など、わが国の美術館活動全体の充実に寄与する活動に引き続き取り組んでいきます。

**「国立美術館 コレクション・ダイアログ」「国立美術館 コレクション・プラス」募集概要**

**国立美術館 コレクション・ダイアログ**



国立美術館のコレクションに開催館のコレクションを加えて構成した、高いテーマ性を有する展覧会の企画を全国の美術館等から募ります。主催は開催館、担当国立美術館、NCARの3者となります。

**【2028(令和10)年度 概要】**

■募集期間:2026年4月1日(水)～6月30日(火)

■2028年度担当国立美術館:国立国際美術館

■採択件数:1件

■2028年度分募集要項 URL:

<https://ncar.artmuseums.go.jp/reports/collections/post2026-180.html>

2024(令和6)年度	2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度	2028(令和10)年度
1件公募	1件公募	[兵庫県立美術館] 1件公募	1件実施(予定)	1件実施(予定)

開催館のコレクションに国立美術館の所蔵作品1点から数点を加えて構成したテーマ展示の企画を、全国の美術館等から募り、採択された応募館を開催館として実施します。主催は開催館とし、担当国立美術館とNCARが特別協力を行います。

【2027(令和9)年度 概要】

- 募集期間：2026年4月1日(水)～6月30日(火)
- 2027年度担当国立美術館：国立西洋美術館、国立工芸館、京都国立近代美術館
- 採択件数：3件
- 2027年度分募集要項 URL：

<https://ncar.artmuseums.go.jp/reports/collections/post2026-181.html>

2025(令和7)年度	2026(令和8)年度	2027(令和9)年度	2028(令和10)年度
3件公募 →	[茨城県陶芸美術館] [北海道立近代美術館] [横浜市民ギャラリー] 3件公募 →	3件実施(予定) 3件公募 →	3件実施(予定)

2026(令和8)年度「国立美術館 コレクション・ダイアログ」実施館・展覧会

2024年に公募を行った第2回目の「国立美術館 コレクション・ダイアログ」は、兵庫県立美術館に決定しました。神戸の川崎造船所の初代社長・松方幸次郎が戦前に収集したフランス近代美術を核とした国立西洋美術館の松方コレクション。そして兵庫県西宮市のコレクター山村徳太郎が収集した戦後日本の前衛美術を中心とした兵庫県立美術館の山村コレクション。兵庫ゆかりの二人のコレクターが築いたコレクションが関西ではじめて共演します。

- 展覧会名：国立美術館 コレクション・ダイアログ 松方幸次郎×山村徳太郎 蒐集の  
パッションーロダンを日本へ、具体を世界へ
- 会 期：2026年10月10日(土)～12月27日(日)



オーギュスト・ロダン《考える人》1881-82年、  
ブロンズ、国立西洋美術館蔵(松方コレクション)  
撮影：©上野則宏



兵庫県立美術館 外観

兵庫県立美術館 担当者 小野 尚子氏コメント

◎「コレクション・ダイアログ」への応募の動機

長引く不況や厳しい予算の獲得など今日の美術館をとりまく状況下において、当館もまた収蔵作品を積極的に活用する時期に来ています。その試みのひとつとして、美術館建設を目標に神戸ゆかりの収集家が築いたという共通点を持つ国立西洋美術館の松方コレクションと当館の山村コレクションを主軸にすえ、両館所蔵の作品を「ダイアログ」させることでコレクションに託した夢とその夢の続きを辿る機会といたく、応募しました。

### ◎「コレクション・ダイアログ」に期待すること

2人のコレクターの業績に焦点をあてるからこそ実現できた西洋近代美術と戦後日本の現代美術の共演という稀な機会を通して、それぞれの所蔵品に新たな鑑賞の視点をもたらすことができることを期待しています。また、貴重なコレクションがいまや公共の財産として保管され、広く鑑賞の対象となることで文化の向上に貢献している点を改めて伝えるとともに、知的財産を継承することの重要性を訴えることができると考えています。

## 2026(令和8)年度「国立美術館 コレクション・プラス」実施館・展覧会

2025年に公募を行った第3回目の「国立美術館 コレクション・プラス」は、茨城県陶芸美術館、北海道立近代美術館、横浜市民ギャラリーの3館に決定し、以下内容での展示を予定しています。



茨城県陶芸美術館（担当国立館：国立工芸館）	
展覧会名	国立美術館 コレクション・プラス 近代ヨーロッパの工芸とデザイン
会期	2026年9月3日（木）～12月24日（木）
概要	近現代日本の工芸の在り方にも多大な影響を及ぼした19世紀末から20世紀半ばまでのヨーロッパに光を当て、茨城県陶芸美術館の所蔵・寄託のエミール・ガレやルーシー・リーらの作品に加え、国立工芸館のクリストファー・ドレッサー、A.M.カッサンドルらの作品を展示し、近代ヨーロッパにおける工芸の多様な展開をたどります。



北海道立近代美術館（担当国立館：京都国立近代美術館）	
展覧会名	国立美術館 コレクション・プラス ガラス 夢のはじまり
会期	2026年9月12日（土）～12月20日（日）
概要	1960年代にアメリカではじまったスタジオ・グラス運動は、大規模な工場に頼らず、個人の工房で作家自らが自由に造形することを提唱しました。京都国立近代美術館が所蔵するスタジオ・グラスの開拓者ハーヴィー・K・リットルトン、ドミニック・ラビノの作品と、それに続く国際的な展開を北海道立近代美術館の所蔵品により紹介します。



横浜市民ギャラリー（担当国立館：国立国際美術館）	
展覧会名	国立美術館 コレクション・プラス 写すこと—再考：日本現代版画（仮称）
会期	2027年2月19日（金）～3月7日（日）
概要	1970年代、写真製版などの新しい技法が登場したことで、日本の現代版画は現代美術と深く結びつき、大きな躍進を遂げました。本展は横浜市民ギャラリーの1980年代を中心とした版画コレクションに、国立国際美術館が所蔵する1960年代末から1970年代の作品を加え、日本の現代版画表現の歩みを振り返ります。

### <報道関係のお問合せ先>

『国立アトリサーチセンター』広報事務局（株式会社プラップジャパン内）

TEL 03-4570-2273 FAX 03-4580-9127 E-mail ncar@prap.co.jp

※営業時間：月～金 10時～18時（祝日・年末年始除く）